

研究室彙報

眞宗學研究室

△眞宗學會

一、十一月七日 秋季見學。加藤主任引率の下に淺野、久保田外學生の參加二十名。

○見學場所。南禪寺。禪林寺。安樂寺。法然院。黒谷岡崎別院。百萬遍。詩仙堂。北山御坊。曼珠院。林丘寺。赤山明神。

○主として元祖宗祖の御遺跡を參詣。南禪寺、詩仙堂、曼珠院では寶物拜觀。

一、十二月七日 例會開催。

○卜部觀順師の學說に就いて。山崎法順君
卜部師の事件に就いて。加藤 教授

一、十二月十九日より休暇につき閉室。

一、昭和十三年一月十二日より開室。

佛敎學研究室

△印度佛敎學會例會

十月二十七日(水曜日) 午後三時

場所 第十一教室

講師 研究科 高田良信氏

演題 唯識三十頌に於ける我法に於て

出席者 松原・加藤・龍山三教授 先輩舟橋一哉氏

研究科稻葉・佐々木(教)河野他學生數名

十二月十一日 午後二時より例會を開く。

場所 第三教室

講師 野澤靜澄氏

演題 大乘莊嚴經論總義に就て

出席者 西本・龍山・西尾諸教授 舟橋先輩學生十

數名出席

西藏譯所傳大乘莊嚴經論總義(利他賢作)の紹介をなし、同論の内容組織を分科的に説明せられた。

○大乘佛敎學會例會

稻葉圓成教授歡迎會

十月三十日(土曜日) 午後一時

場所 八百文(四條石段下)

講師 山口光圓教授

演題 天台教學研究雜感

出席者 本田學長・稻葉・松原・西本・龍山諸教授

先輩戸松・舟橋・松見三氏 研究科稻葉・

河野・佐々木(教)其他學生二十數名

例會を兼ね稻葉圓成教授の歡迎會開催、山口光圓教授の講演は天台教學の研究に就て、經家・釋家・記家の分類を誤らざるやう留意すべき事より、上杉前學長の日本天台史に對する好意ある批判に及び、更に連剛の「定宗論」一卷、「叡山三院名目遣」、「法華五重玄義輯略」等の新資料に就ての紹介をされた。續いて稻葉教授歡迎會に移り、龍山教授の歡迎の辭あり、後稻葉教授を中心に種々歡談頗る盛會であつた。

十一月十八日 午後三時より例會を開く。

場所 於本學第三教室

講師 茜部教授

研究室彙報

演題 世親の戒學

出席者 松原・西本・西尾諸教授 松見先輩研究科

河野他學生十數名

三學と戒學、戒の體、戒の相、得戒のそれぞれに就て世親の戒學を論ぜられ、世親戒學の特長として、(一)現實に對して批判を下すも理想境の問題は、祖述助成す。(二)自己に適用して考察す。(三)菩薩と比丘とを別け、比丘を嚴重に制すの三項を結論せられた。

十二月九日 午後三時より例會を開く。

場所 第三教室

講師 泉教授

演題 偽經を査定して十王經を論ず

出席者 龍山・西尾兩教授 舟橋・清井・松見・各

先輩研究科河野その他學生十數名

出三藏記集、衆經錄、內典錄、開元錄等の記述によつて偽經の定義と、それに對する批判を紹介せられ、次に十王經の支那日本の二本の傳來あることを述べられ、その製作年代の推定を試みられ、日本傳本跋文にある「天聖十年」なる年號は「天寶」の寫誤なることを論證せられた。

哲學研究室

△哲學會

十一月九日(火)午後七時よりかぎや樓上に於て例會を開く。

講師 朝永教授

カントの「平和論」を中心として我國の現状に及び合せて學生の將來への指針となすべき有意義なる講演を聴く。

出席者 鈴木・立花・福井・正木・天友の諸先生外

に學生十數名。

(寺西記)

△社會學會

一、昭和十二年六月九日午後三時より第十一教室に於て例會を開く。

發表者 池田義祐君(三回生)

題目 「農村社會學方法論への一考察」

出席者 山口・臼井・福井各教授 學生 十四名

發表後質問及懇談茶話會に入り午後六時閉會。

一、昭和十二年十一月十七日午後三時より第十一教室にて例會を開く。(十月中に開く筈の所延引して十一月に入る)——(十月分の例會)

發表者 橘惠龍君(三回生)

題目 「少年犯罪の研究」

出席者 山口・福井兩教授 學生 十三名

發表中に日暮、中途にて打切り質問茶話會に移る午後五時半閉會。

一、昭和十二年十一月二十四日午後二時より十一月分の例會を開く。場所は初め第十教室にて後第十一教室に移る。

發表者 題目、共に前に同じ即ち

橘君の少年犯罪の研究の殘餘。

出席者 福井・山口兩教授 學生 十三名

發表後前と同様質問茶話會に入る午後五時半散會。

(江畑・鳴海・記)

人文學研究室

△國史研究會

關東史蹟見學旅行發表會

六月二十日發表會を行ふ。旅行參加者は各々分擔し約十五分に亙りて之を行ふ。發表者とその題目並びに當日出席者左の如し。

指導教授 德重淺吉先生

先 輩 藤島 達朗氏

同 宮田 利雄氏

同 井上 彰淳氏

〃 稻田西念寺 〃 佐々木眞悟君

〃 水戸學と佛教 〃 寺林 宏君

〃 大洗磯宮神社 〃 井上 剛君

〃 願入寺 〃 上宮 靜修君

〃 報恩寺 〃 横田 善龍君

〃 鎌倉國寶館 〃 大澤 宗雄君

〃 圓覺寺 〃 仲野 良俊君

〃 賴朝、大塔宮、東勝寺 〃 徳山 尊麿君

〃 史料編纂所 〃 下村 法道君

〃 寛永寺 〃 富田 秀允君

〃 弘道館、常盤神社、偕樂園 〃 倉田 大信君

〃 東慶寺 〃 淺野 一善君

〃 明治神宮 〃 細川 博君

〃 中山法々經寺 〃 柏原 祐泉君

〃 善重寺 〃 高木 麗敬君

〃 彰考館 〃 長 觀城君

學生出席者 朝倉現曉・王樹穆・小笠原長晴・井上

輝興・服部敬重・柳山淳・藤川正・宇

治谷義雄・諸君。

◎例 會

時 十月二十二日午後三時より於第九教室

講師 建部神社宮司 森口奈良吉氏

演 題 神武天皇の親祭

出席者 德重教授多屋教授宮田氏以下學生二十名

◎河内方面史蹟調査旅行

◎昭和十二年十一月十三日午前七時四十分京都驛發

◎見學場所次の如し。(見學の葉配布)

△道明寺天満宮(河内郡道明寺村)午前十時頃着、参拜後直ちに堤氏より天満宮の縁起、當地方の古戰場特に南北朝時代或は大坂役に關して、又は御陵に就いて説明を聞く。終つて寶物館を拜觀す。即ち勅封八稜神鏡、櫛笥(國寶)一具象牙飾一枚 紫元結二卷、石帶(國寶)一連等管公遺品中の重要なもので其の外管公に關係するもの非常に多く、當社發行の「天満宮の葉」に所載してある。

△道明寺、天満宮を辭して程近き道明寺に至る。道明寺略縁起を戴き、直ちに寶物を拜觀す、國寶物としては本尊十一面觀世音(管公作)、試十一面觀世音(同上)、聖德太子御像(太子自作)があり、その他佛像、寫經等見るべきもの相當にある。尙興正菩薩の自作像の、あつた事を記しておく。

△森田氏所藏寶物拜觀、道明寺を出て、同中食を取り古市に向ふ。當地の森田氏宅にて所藏物を見る。藏する所非常に多く、特に本願寺關係のものとして、

教如上人御眞筆、准如上人書狀、宣如上人、一如上人御消息、良如上人書狀、下間少進法印書狀等は注意を惹いた。其の外、豐公書狀。水戸光圀公書狀。板倉重宗書狀。土井利勝書狀。享保十七年箱根關所手形。南芳院文書。豐臣秀賴黑印狀。青蓮院尊朝法親王貴翰。弘安五年興福寺公文書下文。圓鑑國師黑蹟。高屋城在城諸將連判起請文。前田玄似書狀。林道春書狀。織田有樂公文書。伊達政宗書狀。毛利輝元宮名授與狀。安國寺惠瓊書狀。後宇多天皇院宣。毛利就書狀。建武戊寅軍忠狀。足利氏政書狀。大友家文書。鷹司政通懷紙。後光嚴天皇宸翰。川路聖漢大人書。東湖先生詩。藤政通和歌。河内西淋寺縁起。等で一同益する所あり。

△金剛輪寺。森田氏の案内で隣村の金剛輪寺に至る。

境内に在る隼人石等を見て、同寺所藏の寶物を拜觀す。其の中當寺覺峯上人のものは注意を引いた。上人は文化十三年四月八十七歳の入滅であるが七十三歳の肖像(享保二年五月關林齋六十九歳の畫)あり。其の著作數々あり。

夕陽漸く没し歸路につく。七時頃大阪着、一同夕食を共にして歸京す。

出席者 徳重指導教授・宮田氏以下學生八名。

△國文學研究室

○十二月十三日午後三時より會議室に於て研究發表あり。

十六夜日記の研究

廣岡瑠璃耶君

○十二月十七日午後三時より第十一教室に於て研究發表あり。

佛足石歌について

白髭伊和塊君

○二月四日午後三時より第十一教室にて左の研究發表あり

宇治拾遺物語について

木塚 龍君

古事記の研究

桑原 仁司君

○第三學期輪讀會、テキスト——無名草子 (以上)

△東洋史學會例會

昭和十二年十一月十六日(火曜日) 午後三時

第四回例會 於第十一教室

研究室彙報

講師 野上教授

講題 後周世宗の破佛と史的意義

出席者芳名 田村・宇都宮兩教授 藤井氏學生約十名

昭和十二年十二月二日(木) 午後六時半

諏訪義讓教授北支留學歡送會 於桃園亭

當日出席者 田村・宇都宮・野上諸教授

鴛淵一先生(京大講師元谷大教授)
廣島文理大教授

藤井氏(研究科) 學生約七名

宴會後記念撮影 午後九時散開

昭和十二年十二月十三日(月曜日) 午後三時

第五回 例會 於第十一教室

左の研究發表あり。

講題 統制院及び宣政院の成立年代に就いて

藤井 弘氏(研究科)

祇教中國傳入についての私考

大石 純悟兄(學二)

出席者 木下・道端・野上諸教授 藤井氏(研究科)

學生約七名。